

令和元年度 北海道羽幌高等学校 自己評価票（教職員） 後期集計

1月31日(金)実施 回答数20名

A:あてはまる＝4点 B:だいたいあてはまる＝3点 C:あまりあてはまらない＝2点 D:あてはまらない＝1点

領域		評価の観点	達成状況		取組の適切さ		改善に向けた取組
			平均	前期平均	平均	前期平均	
学校運営	組織運営	1 本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.20	3.35	3.30	3.35	・生徒の実態を踏まえた授業改善によって、体力向上の効果が出ている。 ・普段から目指す生徒像を意識した授業改善が必要だと感じる。また、組織として町の特性や教育資源について考える必要がある。 ・生徒や地域の実情に即した教育課程を編成する必要がある。
		2 目指す生徒像や育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.40	3.30	3.35	3.40	
		3 前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.20	3.30	3.20	3.25	
	教職員の資質向上と服務規律	4 信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.60	3.65	3.55	3.60	・多忙感を減らし、研修や研鑽に対して前向きに取り組むことができる環境整備が必要である。 ・部活動指導員の拡充や外部による学校サポーター制度を活用したい。 ・校内研修等で組織全体で危機管理意識を高める取組を増やしても良い。 ・業務の精選やスケジュール管理で「働き方」が変わるとは思えない。この時代なので仕事が増える方向にある。教員定数の増を望む。 ・教員の職責や任務について保護者と話すようにしている。 ・「無理・無駄・ムラ」を減らせるような勤務を心掛けている。 ・効率的な業務の精選を引き続き行っていく。
		5 研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.30	3.30	3.25	3.40	
		6 効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどして、「働き方改革」を進めている。	3.05	2.90	3.10	3.00	
教育活動	総務・教務	7 HPやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.85	3.75	3.90	3.60	・地域の資源を効果的に活用することが課題である。 ・家庭学習の定着には個人差があり、課題を感じている。 ・「総合的な探究の時間」について、生徒一人ひとりの探究支援体制や教科横断的な組織体制でテコ入れが必要である。 ・生徒が学ぶ意欲の沸くような手立てが足りなかったことが反省である。また、授業が大切だと研修から改めて感じた。 ・シラバス作成段階で他教科との連携について検討する。 ・授業評価アンケートの結果を面談資料として活用するなど、改善策を見出す手立てにする。 ・各教科は家庭学習の定着に尽力している。これまでの家庭学習の在り方はどうであったか。 ・教科横断的な授業展開に向けて、もっと他教科の取組に目を向けるべきである。 ・積極的にワークショップに出たり、他校へ授業見学に行くと良いかもしれない。 ・朝学習や朝テストなどを行っていますが、他にもオンラインで課題を出すの良いかもしれません。 ・家庭学習習慣の定着に向けて、朝学習などの充実を考えていくべきである。 ・校内での教科連携を活発になれるよう、お互いに授業を観察し、意見を出し合える土壌を作るべきである。学校全体として取り組む目標を共有する(例えば道徳教育にこの観点を各教科に落とし込んでいく)。 ・PTAについて、保護者の負担(役員や行事協力)が不公平になっているように感じる。 ・PTA活動が活発になるよう積極的な参加を促す。 ・授業や考査の在り方(考査期間の授業、自習時間の設定)について、検討すべき点があると思う。
		8 学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.65	3.60	3.40	3.60	
		9 学校とPTAの連携が十分図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	3.45	3.35	3.35	3.35	
		10 シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.10	3.05	3.25	3.20	
		11 知識・技能の習得だけでなく、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.00	3.20	3.10	3.20	
		12 自主的・意欲的に家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせる工夫を行っている。	2.90	3.10	3.10	3.20	
	生徒指導	13 いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.35	3.50	3.35	3.45	・委員会などを通じて一時的予防に努めることができているが、数件発生しているので、更なる取組が必要である。 ・これまで通り「命の大切さ」について取り組んでいく。 ・講話や講演の数はとても多いので、内容を吟味し、もっと精選すべきである。授業時数を削るリスクと天秤にかけて判断でしょうか。 ・「早期発見」や全員で取り組むことの重要さを感じる。 ・小さいことでも危機管理意識を持って取り組むことが大事である。進学や就職先でも、もっと大きな集団になるので、「そのくらいなら大丈夫だろう」と甘く見ないよう全体で意識したい。 ・学校行事の目的を明確にして、活動後に必ず振り返らせる必要がある。 ・教員間の共通認識となるマニュアルがあると迅速な対応につながる。 ・SNSの扱い方についてもっと指導が必要である。 ・いじめ、性、命、個人情報等への継続的な指導が必要である。 ・組織全体として内規の整理や教職員の資質向上が必要である。
		14 学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育てている。	3.45	3.35	3.45	3.40	
		15 各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.60	3.45	3.55	3.55	
		16 ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.50	3.70	3.55	3.60	
	進路指導	17 生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)を行っている。	3.40	3.40	3.55	3.25	・保護者への情報提供の設定方法(全員集まるのが難しいこと、面談前の教員間での意思統一)を検討する必要がある。 ・早い段階から保護者に情報提供する場を設ける(入試制度・進学費用・奨学金など)。 ・昼休みの進路室開放は続けるべきである。 ・状況の確認、情報収集・分析、職員間の共有、そして保護者・生徒への提供が必要である。 ・3年間を通したキャリア教育を目指している。学年が上がるにつれ危機感が増すので、もっと計画的に取り組みたい。 ・3年間を見通した指導の大切さを感じた。
		18 収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.20	3.35	3.30	3.40	